

災害時の車中泊避難について

1. 車中泊避難者支援の考え方

車中泊避難とは、避難所での避難生活が必要な方が、やむを得ず車で避難生活を送ることをいい、車中泊による避難は、平成16年の新潟県中越地震や平成28年の熊本地震で多く発生。

【車中泊避難する理由】

- ・ 余震が怖い
- ・ 避難所が満員
- ・ 乳児連れで夜中に泣いてしまう
- ・ ペットがいる

【メリット】

- ・ プライバシーの確保
- ・ ペットの世話ができる

【デメリット】

- ・ エコノミークラス症候群の危険性

→ 車中泊避難は健康管理や避難者等の状況把握の面で課題があり望ましいものではないこと、長期の生活を送る場所として適切ではないことを前提に、様々な理由によりやむを得ず車中泊を選択する避難者が一定程度発生することを踏まえ、平時から検討・準備が必要。

2. 現 状

「避難所開設・運営ガイドライン」P32 車中泊避難者等への対応

- (i) 車中避難者には車中で避難している状態を、避難所へ申し出ることを周知します。
- (ii) 車中避難者であることを避難所で申し出てもらい、避難者名簿で受付します。
- (iii) 食料等の配給時間等を周知します。
- (iv) 食料・物資を配給します。
 - ・車中泊避難は、エコノミークラス症候群などの健康管理上の問題があるため、避難所への避難を勧めます。
 - ・避難所では十分な駐車スペースの確保が困難なため、移動をお願いすることがあることに加え、近辺にある駐車可能な場所などを把握しておくことが望まれます。

前回（令和 7 年 7 月）の防災専門会議の意見

- ・ 車中泊をする場合はエコノミークラス症候群予防のため、体を動かすこととことや薬を準備することを周知する必要がある。
- ・ 避難所には物資の搬入や緊急車両が入るため車中泊避難所として設定することはむずかしい。
- ・ 駐車場の提供が可能となっている災害時協力事業所の駐車場を活用してもいいのではないか。
- ・ 車中泊避難をする場合、運営する人やルール作りが必要。

令和 7 年 7 月の地域活動協議会で車中泊避難に関するアンケートの実施依頼

アンケート結果は別紙のとおり

車中泊避難に関するアンケート(R7実施)集計結果

資料3-2

1. 災害時の車中泊避難スペースを確保する必要があると思いますか？

選択肢	回答数	占有率	有効回答数	39
ア. 確保する必要がある	29	74.4%		
イ. 確保する必要がない	10	25.6%		

2. イを選択された場合は、理由をお答えください。

(主な意見)

- ・災害時は道路状況が悪い可能性があり、渋滞も考えられるため。車を使用する避難に反対。
- ・確保する場所がないため。
- ・避難者と自動車の近接は混乱する。運営する人もいるし、学校周辺の道路が狭い。
- ・エコノミークラス症候群の心配がある。
- ・地域が車中泊を受け入れることは難しい、その他の未利用地を検討してはどうか？
- ・鉄筋ガレージは安全。ガレージを車中泊として活用できるため。

3. 災害時避難所(小学校・中学校)の運動場を車中泊避難スペースにすることについてどのように考えられますか？

選択肢(課題)	回答数	占有率	有効回答数	39
ア 車中泊避難スペースとして使用することは可能	20	51.3%		
イ 使用することはできないと考える	14	35.9%		
ウ その他	5	12.8%		

その他の意見

- ・現時点で判断できない。
- ・車中泊がプライバシーの確保になることは否定できない。
- ・災害時避難所を使用することは問題が多い。
- ・運営負担は増えるが地域の公園などで車中泊スペースをつくる。
- ・踏切や渋滞により避難所にいけないと思う。
- ・事後に必要な場合に考えればいいことで、予め設定することは車所有者の優遇となる。
- ・別の場所を確保することが重要だと思う。
- ・大声を出したり他に迷惑となる。
- ・学校に使用の協議をしてほしい
- ・学校だけでなく沢之町公園、あびこ公園、浅香中央公園などの活用もいいと思う。

4. 上記を選択された理由や、運動場を車中泊スペースにする課題をご記入ください。

(否定的な意見)

- ・駐車スペースを確保することで運営側の負担が増す。
- ・地域の道がせまく、運動場まで行くことができない。また物資、ガソリン給油の移動も難しい。
- ・台数を制限することによるトラブル
- ・運動場は救援物資の「運搬車」のスペースとして確実に開けておく必要がある。
- ・キャンプ場のように水源やトイレが確保できるか疑問。
- ・車中泊をしたい場合は公共の場所ではなく個人の私有地で行うべき。
- ・運動場は避難者の一時待機場所や救援物資車両の場所として確保しないとイケないため。
- ・環境的に無理だと思う。
- ・避難物資の受け入れ時に混乱が予想される。ヘリの発着ができなくなる。
- ・運動場がせまい。
- ・学校や生徒の迷惑になるのではないかな。

(肯定的な意見)

- ・車中泊避難を選択される方が一定数見込まれる以上受け入れを考慮すべき。ただし、エンジンをかけるため、排気、騒音問題の対策が必要。
- ・運動場がスペースとして一番適切と思う。
- ・運動場を利用することで避難所の収容能力不足に対して貢献材料となる。
- ・車中泊避難が避難者のニーズがある。ただしデメリットや留意事項も多いため解消に向け検討することが重要。
- ・避難所本部として利用する前にスペース、車路などレイアウトを決めておく。車中泊者の管理や運営ルールなど見える化しておくことが必要。
- ・運動場となる場合、学校側の運動場利用スペースとの棲み分けが必要。
- ・運動場なら認知度が高く誰でもわかる。他にスペースがない。
- ・ペットや小さい子供がいる家庭は車中泊を望むと思う。
- ・避難所の中なので情報が入りやすい。

5. その他ご意見等ございましたら、ご自由にご記入ください。

- ・机上の考えしかできないのでアンケートの回答が難しい、前例など例示してほしい。
- ・当町会にも車いすが必要な方が数十人いる。障がい者の多い町会は必要に応じて使用可とするなど。
- ・学校以外を車中泊スペースとして検討する場合、広場や公園など適当なスペースがあるか。運営委員会が連携や管理運営が実行可能かも判断上重要である。
- ・車中泊はエコノミークラス症候群が問題と言われており、健康面の観点から車中泊避難の対策をする必要はないと思う。
- ・車中泊避難を受け付けるならそれなりのスタッフが必要となるため無理がある。但し受け付け可能な場合は、グラウンドや空き地等事前に指定し対応することが必要。
- ・プライベートな空間も必要かと思う。
- ・一時的に使用するなど期間限定として実施する。
- ・車中泊ではなく避難所でベットと過ごせるスペースを確保する必要があるのではないかな。